

留 学 報 告 書

記入日: 2014年6月17日



所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	イギリス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マンチェスター大学 現地言語: The University of Manchester
留学期間	2013年9月～2014年6月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	School of Humanity
帰国年月日	2014年6月16日
明治大学卒業予定年	2016年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期: 9月上旬～1月下旬 2学期: 1月下旬～6月上旬
学生数	24,867人
創立年	1824年

留学費用項目	現地通貨(ポンド)	円	備考
授業料	0	0円	協定留学のため授業料はなし
宿舍費	5,121	88万6千円	
食費	2,900	52万円	
図書費	160	2万7千円	
学用品費	20	3,460円	
教養娯楽費	2,000	34万6千円	旅行費含む
被服費	300	5万円	
医療費	0	0円	病院へ行くことはありませんでした
保険費		107,760円	形態: 明治大学で加入義務のもの
渡航旅費		19万円	KLM オランダ航空
雑費	350	5万7千円	電話代や印刷代、選振代など
合計		円	

渡航関連

渡航経路: 東京成田～アムステルダム～マンチェスター

渡航費用

チケットの種類	一年間オープンチケット
往路	_____
復路	_____
合計	約 19 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

トラベルコちゃんというサイトで予約しました。KLM オランダ航空は機内も快適で乗り継ぎ時間も短めに設定されているので、効率よく渡航できます。また、フィンランド航空、日本航空共同運航のヘルシンキ経由も早くおすすめです。

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 _____)

3)住居を探した方法:

大学のホームページ

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

寮によって住人の種類や気質が違うので、自分に合ったところを選びましょう。中心部に近く、値段が上がるほど部屋が狭く、静かで勉強に集中したい人が多くなります。反対に遠い寮は賑やかで、連日パーティーが行われます。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか？大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった
 利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

留学生担当のアドバイザー

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

外務省のホームページ。盗難は一度。大学に相談したがどうしようもなかった。以降身の回りのものは常に身に着けるようにした。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学の寮だったので問題なくつながる。不具合はなし。大学の施設で基本的に無料の wifi がある。日本の携帯も使える。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか？(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードと日本で作ったキャッシュパスポートの併用

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

シャンプー類、日本食、筆記用具

進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
検討中
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
120 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 10 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Japanese history and culture	日本史
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2013 年 9 月～2014 年 1 月
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回の講義とチュートリアル
授業時間数	1週間に 120 分が 1 回
担当教授	Dr Ruselle Meade
授業内容	日本原始古代から入りかなり速いペースで第二次世界大戦まで学びました。細かい事項は出てきません。講義を聴いていれば毎回実施される小テストをこなすことができました。
試験・課題など	中間試験もかねてエッセイの提出が一回あり、最終評定の 50%を占めます。試験はエッセイ形式で 8 題から 3 題選び、自由に回答する形式です。
感想を自由記入	内容は基本的事項が多いですが、イギリスに関連するものが比較的多いと思いました。チュートリアルでは第二次世界大戦に関する映画を見て話し合うこともありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Language, Mind and Brain	言語、精神と脳
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2013年9月～2014年1月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回の講義と隔週のチュートリアル
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Dr. Wendell Kimper
授業内容	第二言語習得に関する基本的事項から入り動物と人間の言語を比較し、最終的には人間の脳の構造に迫っていく講義でした。
試験・課題など	定期試験が実施されない代わりに学期中3回のエッセイ提出がありました。最終評定はほぼ3回目のエッセイで決まります。
感想を自由記入	序盤は易しめな内容ですが、終盤はかなり高度な内容で、読書課題の量、質に大変苦労させられました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introducing English grammar	英文法入門
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2013年9月～2014年1月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回の授業と隔週のチュートリアル
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Professor David Denison
授業内容	英語学の基礎となる文法を扱いました。日本の学校で学ぶ文法とは考え方が違い、同士の分類、名詞の分類、"constituent"という概念を使って分構造を解析したりしました。
試験・課題など	エッセイ提出はありませんが、評定は100%定期試験で決まります。
感想を自由記入	この授業の難易度は言語学の中では易しい方だと思います。新しい考え方も身につくので、非常に興味深い授業でもありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Media, Self, and imagined community	メディア、セルフ、創造共同体
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities (social sciences)
履修期間	2013年9月～2014年1月
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回の講義とチュートリアル
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Dr Graeme Kirkpatrick
授業内容	この授業ではヨーロッパの大まかな映像文化、大衆芸能、消費文化について学びました。
試験・課題など	エッセイの中間提出が一回ありますが、評定には関係ありません。しかし、提出しないと最終評定から5%マイナスになります。評定は最終試験で決まります。
感想を自由記入	私が取った授業の中で最も難易度が高い授業です。読書課題の量も半端ではなく、加えて著名な哲学者が書いた抽象的な文献なので、相当の努力、忍耐が必要です。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Business English for international students	留学生向けビジネス英語
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities (university language center)
履修期間	2014年1月～2014年6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義のみ
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Sue Boswell-Rees
授業内容	毎回配布される教材を用いて、ビジネスに関連する単語やメールの書き方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。
試験・課題など	宿題がほぼ毎週出ます。中間にプレゼンが一回、最終試験は reading, writing, speaking listening とすべての技能が試されます
感想を自由記入	一見易しそうに見えますが、授業の難易度は高いです

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Modern Japanese society	近代日本社会入門
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2014年1月～2014年6月
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	毎回変わるルー講義形式 (Dr Peter Cave, Erica Baffelli, Sharon Kinsella, Anna Seabourne)
授業内容	日本の地形、政治、女性問題、経済など、毎回違う教諭によりさまざまな内容を扱います。
試験・課題など	評定は期末エッセイと期末試験で決まります。試験問題はエッセイで選んだトピックに類似しています。
感想を自由記入	内容は比較的基本的事項が多いように思いましたが、良い成績をとるには相当の独創的な思考が必要だと思いました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to the history of English	古英語入門
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2014年1月～2014年6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	毎週1回の授業と隔週のセミナー
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Dr Tine Breban
授業内容	英語の歴史と古英語の読解両方を扱います。昔の文献を探しに図書館に行ったりもします。
試験・課題など	毎週オンラインで実施する小テストの他に、大きな課題提出が中間、期末と二回あります。
感想を自由記入	英語の授業の中で最も難易度が高いと思いました。この授業を取る際は日本である程度の知識をつけておいたほうがいいでしょう。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to sociolinguistics	社会言語学入門
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2014年1月～2014年6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	毎週の授業と隔週のセミナー
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Dr Sarah Gormley
授業内容	ジェンダー、階級、方言などの観点から、言語内に起こる差異を見ていく講義です。
試験・課題など	評定は毎週実施される小テスト(読書課題が元)と選択式の期末試験で決まります。
感想を自由記入	内容は非常に興味深いものでした。読書課題の量が回を重ねるごとに多くなっていき、最終的には相当な量を読み込まなければなりません。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Investing grammar	文法研究
科目設置学部・研究科	Faculty of Humanities
履修期間	2014年1月～2014年6月
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回の講義と隔週のセミナー
授業時間数	1週間に60分が1回
担当教授	Dr Delia Bentley
授業内容	主に英語の構造(名詞の置き方、constituent、文の種類など)英文法に限らず、世界の言語の構造を調べたり、両方の言語を分析したりします。
試験・課題など	学期中オンラインで実施される小テストが二回と期末試験があります。
感想を自由記入	他国の言語と比較して英語の構造を分析するのは初めての体験で、興味深かったです。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	明治大学を受験。地元でのんびり過ごす。
4月～7月	明治大学に入学。 都会生活を満喫しながらも、漠然と留学を意識し始める。
8月～9月	留学を決意。 TOEFL の勉強を始め、夏休みに第一回目を受験。
10月～12月	10月に受験した三回目の TOEFL で目標点に到達。 マンチェスター大学へ出願、協定留学プログラム面接選考。
2013年 1月～3月	英語力の維持の他はバイトで資金貯め・免許取得。
4月～7月	順次渡航準備開始。 ビザ取得や現地の寮決め、履修登録もこの時期。
8月～9月	イギリス渡航。本科の授業が始まる前に語学授業を 3 週間受けた。 9月上旬1学期開始。reading week という休暇が 1 週間ある。
10月～12月	中間試験やエッセイ提出が相次ぐ。 12月中旬からはクリスマス休暇。 皆思い思いの場所に行き、ヨーロッパを満喫する。
2014年 1月～3月	1月上旬クリスマス休暇が終わった直後には定期テストがある。 図書館の営業時間も延長され、日々勉強に励む。 定期テスト後はすぐに 2 学期が始まる。
4月～7月	4月には約一か月のイースター休暇があり、旅行を楽しむ人がほとんど。 5月からは最後の定期試験が始まり、終わった人から母国へ帰国し始める。 6月中旬には全員退寮しなければならない。
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	私が留学しようと思った理由は、将来の職業選択のためです。私は元来航空業界に興味を持っており、この目標を達成するためには、高度な語学力を身につけることと海外での居住経験が大切だと思いました。語学力を身につけるには、語学留学ではなく、現地の学生と同じ条件、同じ環境で勉強できる一年間の協定留学が最適だと思いました。また、留学にかかる費用を心配して躊躇したこともありましたが、大学に豊富な種類の奨学金制度があったことも留学決心を後押しした要因です。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力向上は重要ですが、中でも会話力を磨いておいた方がいいと思います。日本に興味がある場合を除き、スムーズに会話ができない人と友達になろうとする人は残念ながらありません。渡航直後はかなり苦労しました。また、現地で履修する予定の授業内容について母国語である程度の前提知識を身につけておくと、学期中も効率よく学習できると思います。私はこの準備を怠ったために授業や読書課題の理解に多大な時間を消費し、プライベートに使える時間が激減してしまいました。
この留学先を選んだ理由	理由は大きく分けて二つあり、一つは私の興味のある言語学を学ぶのに最適な場所だと思ったからです。マンチェスター大学は言語学の研究で世界トップクラスに分類されており、一年という時間を割くのならば質の高い教育が受けられるところに留学したいと思いました。また、マンチェスター大学は他大学に比べ言語学系統の授業の種類が豊富で、自身の知的好奇心を満たすのに申し分ないと思いました。第二の理由としては、日本に比べヨーロッパ諸国は公共交通機関が発達しており、将来の職業選択を見据え、実地へ行き、体験してみたいと思ったからです。
大学・学生の雰囲気	イギリスは移民の国というだけあって、キャンパスには様々な国から来ている留学生で溢れています。大学院も含めると特に中国、アラブ系の人たちが多く感じました。しかし、私が履修しているコースは8割が現地の学生でアジア人は私一人でしたので、履修するコースによって若干の違いがあるようです。一概に言うことはできませんが、平日は皆夜まで真面目に勉強する代わりに木曜日、金曜日、土曜日の夜に思いきり遊ぶ(パブに行くなど)ことが多いようです。また、雨が多いせいか、晴れると皆キャンパスの芝生でピクニックを始めます。
寮の雰囲気	基本的に大学から遠い寮は賑やかで、毎日のようにパーティーが開催されているようですが、私の住んでいた都市部の寮は交流活動、パーティーなどは一切なく、勉強に集中したい人たちが集まっているように感じました。その分、騒音が気になる、キッチンが汚いなど寮生の間でよく問題になることが起こることなく、皆平和に暮らしていました。キッチンを共有するフラットメイトがたくさんいるので、友人を作るのにも悪くない環境だったと思います。
交友関係	渡航直後は語学力の問題もあり、なかなか異国の友達ができず、日本人と絡んでしまった時期もありますが、とりあえずでもパーティーに参加してみる、片っ端から話しかけてみる、日本食で釣ってみるなど様々なことを繰り返すうちに友人の数も増え、帰国前には生涯の友人と呼べる仲間もできました。また、マンチェスターには日本語を学んでいる学生もいるため、彼らと language exchange と呼ばれる語学を教え合うパートナーの関係になると、一層友人の幅が広がります。
困ったこと、大変だったこと	一番大変だったのは、イギリスの地方都市固有の訛りを理解することです。北部都市、南部都市、固有の訛りが数多くあり、地方に旅行に行った際のバスドライバーなどと会話をするのが非常に困難だったことがあります。また、イギリスの食生活には最後までなじむことができませんでした。外食しても自分の口に合う食べ物はマクドナルドくらいしかないので、極力自炊するようにしていました。旅行に出た際、必ず体調を崩すのがつらかったです。
学習内容・勉強について	私は現地で主に言語学を専攻していました。授業は発言や意見交換はあまりなく、教授が事実や考え方をひたすら伝えるスタイルが多かったです。その代わりに、毎週あるいは隔週で実施されるチュートリアルやセミナーでは、学生主体で指導員が設定したテーマについて話し合い結論を出し、発表する形式で行われます。言語学は専門用語も多く、今まで習ったことのない概念も多く授業についていくのも相当大変だったので、母国語である程度の知識を身につけておくと、現地での学習もスムーズに進むのではないかと思います。

課題・試験について	専攻、授業により課題や試験のタイプは様々ですが、間違いなく日本の大学よりも課題（読書課題がメイン）が多いです。歴史系の授業では一つの読書課題が100ページを超えることも珍しくなく、その他の授業でも毎週小テストがあったり数回のエッセイ提出があったりと、学期中もかなり忙しいです。ただ、テストは基本的に授業で扱ったすべての内容から2、3題自分で選んで回答する形式がほとんどなので、日々の学習ではテストで回答する予定のものを重点的に勉強すると効率が良いと思います。
大学外の活動について	正直授業の予習復習など勉強で精一杯だったので、課外活動は所属していたサークルの活動と休暇中の旅行以外、あまりしていません。ボランティアなどの課外活動は6月から8月までの夏休みに集中してあるようですが、ビザの関係があるので私は参加不可でした。また、大学には通年の授業で実際に様々なボランティア活動を行うものもあるので、興味のある人は履修してみるのも良いかもしれません。運動系も含めサークルは皆忙しいので、基本週1回集まり活動するところが多いようです。
留学を志す人へ	ゆとり教育を受けてきた私たちの世代にとって、海外の大学で受ける授業のレベルの高さ、生徒の学習に対する意識の高さには唖然とするでしょう。自分には到底ついていけないと挫折することもあるかもしれません。しかし、不屈の精神を持って課題にぐらいついていき、単位をとれた時の喜びは大きいです。もちろん、現地で少しでも効率よく学習できるよう語学力は極力高める方が望ましいです。また、留学中は後悔しないように、自分のやりたいことは何でもチャレンジするのがいいと思います。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中			授業	授業		(テスト前は土日両方とも図書館で自習)	それ以外の週は旅行に行ったり、サークルのイベントに参加したり。当然勉強する時間も取らなければならない)
	授業	休み	自習	休み	チュートリアル		
午後	昼休み	授業	チュートリアル	チュートリアル	チュートリアル		
	授業	授業	自習	自習	チュートリアル		
夕刻	自習・夕食	自習・夕食	休憩・自習	自習・夕食	自習・夕食		
夜	休憩・自習	休憩・自習	フラットメイトと食事することが多い	休憩・自習	自習 or パーティー		



渡航後最初に出会った
中国本土から来た仲間達



大学内を走る無料循環バス。
都市部の寮に住む場合はこれで通学できる。



最後に生活した寮の部屋。
かなり狭いが、特に不自由は無かった。



キャンパス内。



national express の車両。
学生は全英を格安で旅行できる。



塗装は貸切用だが、同じく national
express。
稀にこのような古い車両が来る。